

極めるスポット便

中田商事 リスク回避に理論武装

運送事業者が安定し保することが第一といえる。スポット便では、事故の可能性が増える。日々の業務や伝票管理などのリスクは拭いき

れない。

レベルUPで客層が変わる

そんな中で、(中田商事(伊賀市)は、ドライバーや事務所の能力レベルを上げること、スポット便のリスクを回避し、安定した利益体質の構築を図っている。

同社の平ボディー二台、十一台中十九台はスポットの仕事を、取引会社は三百五十社を超える。

とコスト削減。売りに注ぐ一方で、自身もげに反映する燃料費、物流大学に通って勉強が、前年に比べ一三%向上した。目標の五%を大きく上回る数字だ。そのほか、高速代や車両修繕費などの運送原価が、前年比一千万円削減したという。数年前までは、運賃をたたかれば、荷主の無理な要求をそのままドライバーに伝えてきたことで不満が溜まり、人の入れ代わりも激しかったという。同社長がコスト、管理能力の低さを感じて一念発起したのが、一年半前。「リスクを下げることで物流サービスにつながる」として、データ

を注ぐ一方で、自身も物流大学に通って勉強が、前年に比べ一三%向上した。目標の五%を大きく上回る数字だ。そのほか、高速代や車両修繕費などの運送原価が、前年比一千万円削減したという。数年前までは、運賃をたたかれば、荷主の無理な要求をそのままドライバーに伝えてきたことで不満が溜まり、人の入れ代わりも激しかったという。同社長がコスト、管理能力の低さを感じて一念発起したのが、一年半前。「リスクを下げることで物流サービスにつながる」として、データ

「運送はサービス業。原価が違い、サービス内容が違うなど、条件が違うので、荷主との交渉で値段が先に来るとはありえない」と語る。理論武装をすることで、売り上げを伸ばし、社員生活を守っている。

(三輪 功)

自身も物流大学へ

同社の平ボディー二台、十一台中十九台はスポットの仕事を、取引会社は三百五十社を超える。